

様式第 2 号（第 8 条関係）

審議会等会議録

会議の名称	令和 8 年度 第 1 回 加須市総合教育会議
開催日時	令和 8 年 8 月 2 0 日（木） 1 0 時 3 0 分から 1 2 時 0 5 分まで
開催場所	加須市役所 3 階 庁議室
議長氏名	高橋 稔裕 市長
出席委員	高橋 稔裕 市長、小野田 誠 教育長、 猪股 富美子 教育長職務代理者、遠藤 康江 教育委員、 松永 修 教育委員、片山 上総 教育委員（6 名）
欠席委員	柴田 秀子 教育委員
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1)加須市宇宙 STEAM 教育プロジェクトについて (2)加須市魅力ある学校づくり基本計画（骨子案）に対する意見募集の実施結果報告について (3)加須市地域クラブ推進計画(案)について (4)加須市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について 4 閉 会
会議資料の名称	・次第 ・総合教育会議名簿 ・資料 1 宇宙 STEAM 教育プロジェクト活動のご紹介 ・資料 2 加須市魅力ある学校づくり基本計画（骨子案）に対する意見募集の実施結果報告 ・資料 3-1 令和 8 年度 部活動に関する諸調査結果まとめ ・資料 3-2 第 2 期埼玉県地域クラブ活動推進計画（前期：令和 8 年度～令和 1 0 年度）の概要について ・資料 3-3 加須市「地域クラブ活動」計画（案） ・資料 3-4 令和 8 年度加須市部活動あり方検討委員会 実施報告 ・資料 4-1 加須市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（概要） ・資料 4-2 加須市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保

	保措置実施計画（冊子）
会議の公開又は 非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴者の数	なし
説明者の職・氏名	魅力ある学校づくり推進室長 鈴木 大輔、 学校教育課長 高橋 一也、学校教育課主幹 栗原 宏明
事務局職員職・氏名	副市長 増田 浩之、総合政策部長 宮寄 秀樹、 生涯学習部長 野中 裕、学校教育部長 渡邊 典孝、 政策調整課長 瀬田 博之、農業振興課長 松井 善人、 教育総務課長 矢部 良貴、 魅力ある学校づくり推進室長 鈴木 大輔、 生涯学習課長 塚田 義正、学校教育課長 高橋 一也、 学校教育課主幹 栗原 宏明
会議録の作成方法	☒ 要点記録 ☐ 全文記録
その他必要な事項	

様式第 3 号（第 8 条関係）

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
	1 開 会
事務局(瀬田政策調整課長)	(開会、委員の紹介、事務局職員の紹介)
事務局(瀬田政策調整課長)	本日の会議につきましては、加須市総合教育会議運営要綱に基づき公開となっておりますこと及び会議終了後に議事録を作成するため、録音することにつきましてご了承くださいますようお願いいたします。 それでは会議の開催にあたりまして、高橋市長から皆様にご挨拶を申し上げます。
	2 あいさつ
市長	(あいさつ)
事務局(瀬田政策調整課長)	ここで議事に入ります前に、本日の会議録の署名委員について、猪股教育長職務代理者をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。 (了承の声あり) それでは会議録完成の際は、ご署名いただきますようお願いいたします。 続きまして、議事に入らせていただきたいと思います。 議事進行につきましては、加須市総合教育会議運営要綱第 4 条の規定に基づきまして高橋市長にお願いします。
	3 議 題
	(1) 加須市宇宙 S T E A M 教育プロジェクトについて
市長	それでは次第に従って進めさせていただきます。 まず、協議事項(1) 加須市宇宙 S T E A M 教育プロジェクトについて、事務局から説明をお願いします。
事務局(栗原学校教育課主幹)	(資料 1 について説明)
市長	委員の皆様にご意見をいただく前に、まず私の考えをお伝えさせていただきます。 私は、「宇宙×農業 S T E A M 教育」を、加須市の次代を担うこどもたちの教育の柱の一つにしたいと考えています。 人が生きる基本であり本市の基幹産業である「農業」と、人類の知恵の最先端である「宇宙」の二つをつなぎ、こどもたちがワクワクしながら学ぶことで、郷土への誇り、科学的に考える力、そして挑戦す

る力を育てたいと思っております。

「加須の農」から始まる学びが、食・科学・宇宙へと広がり、既存教科への興味をも高め、その純粋な好奇心や探究心が将来の進路や仕事、起業へと発展し、やがて地域社会に還元されていくような、未来につながる教育をつくることを理想として目指していきたいと考えています。

既に始まっている事業もございますが、プロジェクトに臨むこどもたちの笑顔や、それを誇らしく見守る保護者の姿は、この取り組みが成功していく大きな力になると感じています。

私には、この教育を通じてこどもたちに「身につけてほしい力」がいくつかございます。

まず、「農業と郷土への誇り」です。これは、ふるさと教育の観点からも推進していくべきだと考えています。

そして、「科学的思考や深い探究心」、失敗を恐れない「挑戦する力」、「学びを将来の仕事や社会につなげる力」も身につけてほしいと思っています。

最後に、これからの時代に不可欠な「AIリテラシー」です。AIの力を正しく認識し、それを適切に活用するための基礎的な力を身につけてほしいと考えています。

次に、授業のカリキュラム作成において最も大事にしてほしいことは、「教職員の負担をむやみに増やさない」ということです。その上で、この取り組みが一過性のイベントで終わらないよう、副読本を作成し、こどもの発達段階に応じて既存教科への学習意欲も高まるような形で進めてほしいと思います。

2点目は、AIリテラシーについてです。重要なことは、探究学習の中でAIに答えを出させるのではなく、AIを使いこなしながら「自分で考え、確かめ、判断する力」を実践の中で身につけてほしいということです。

AIに任せられることと、人が考え判断すべきことを区別できることは、これからの時代の「基礎的な知的生産能力」だと考えます。AIを実践的なツールとして使い、こどもたちの確かな力として定着させたいと思います。

以上がこのプロジェクトで私が大切にしたいことです。

こどもたちが、自分たちの郷土には素晴らしい農業があり、そこから最先端の科学や宇宙にまで挑戦できると実感できる教育を、皆さんと一緒に作り上げていきたいと思っています。

市長	それでは、ただいまの事務局からの説明、そして、私からの意見を踏まえて意見交換を進めたいと思います。
猪股教育長職務 代理者	まず、株式会社デジタルブラストの専門的な知見を生かした新たな宇宙STEAM教育プロジェクトがスタートしましたが、今後はすべてをこの会社に依存するのではなく、加須市の教員が自分たちの力で各学校において展開できるよう、教員の人材育成も併せてお願いしたいと思います。 2点目は、STEAM教育で一番ポイントになるのはカリキュラムマネジメントです。加須市ならではの宇宙・STEAM教育のカリキュラムを自分たちで構築し、発信するつもりで展開してほしいと思います。 3点目は、ただ学ぶだけでなく、どれだけ他に向けて発信し共感を得られるかが大切です。加須市の教育課題である英語教育と結びつけ、少年の主張大会のように自分たちでプレゼン・発信する力を英語である程度できる形につなげてほしいと思います。さらに、日本国内だけでなく外国も含め、小中学校レベルで宇宙・STEAM教育を実施している学校とお互い学び合えるグローバルな展開も入れていただければと思います。
松永教育委員	最後に、STEAM教育の「A（アート）」の部分は、音楽だけでなくアート全般に広げ、こどもたちの感性の向上にもチャレンジしていただけると楽しい展開になると思います。 宇宙をテーマとしつつ、加須市の特色である「農と食」を取り入れた本プロジェクトは、こどもたちにとって夢があり、とても価値のある素材だと考えています。 STEAM教育の本質は、教科の枠を超えた学びを通して、実社会で生きて働く「課題解決能力」を育成することにあります。 その土台は、幼児教育の段階から始まっています。例えば「砂遊び」一つをとっても、山を作り、崩れるのを防ぐために手で叩いて固め、トンネルを通すためにミニスコップを使い、思考しながら遊びを発展させていく過程には、サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アートなどといったSTEAMの要素がすべて含まれています。 この幼児期からの学びの連続性を踏まえ、小中学校では、児童・生徒が主体的に計画し、実践・評価して次に発展させていくという「学習のプロセス」そのものを重視することが必要になってきます。 加須市ならではの素晴らしい素材と、このしっかりとした学習プ

遠藤教育委員

ロセスを重視した独自性のあるカリキュラムを組み合わせることで、他にない特色あるSTEAM教育が実現できると確信しています。

この議題の資料を拝見し、まず懸念したのは現場の先生方の負担が増えることでしたが、先ほどの市長の「負担をむやみに増やさない」というお話を聞き、少し安心しました。

その上で、現場の先生の負担を減らすためにも、市が中心となって様々な方の意見を取り入れたガイドブックや副読本を作成し、それを基に授業を進める方法が良いと思います。

そもそもSTEAM教育で大切なことは、理数系人材が不足する中で、こどもたちがAIに使われるのではなく「使う側」として思考する力を養うことにあると考えます。そのためには、幼児期からの土台づくりが重要で、「考える楽しさ」や「ものづくりの喜び」を小さい頃から大人になるまでつなげられるように実施してほしいと思います。

また、加須市には高校や大学もありますので、高校生や大学生、その先生方にも意見を聞くとともに、出前授業の実施等で連携することで、こどもたちの宇宙や地域、農業への興味や学習意欲がさらに広がっていくと思います。

最後に、具体的な進め方について質問ですが、「農と宇宙」のうち、農業の部分はどのように進めていくのか、後ほどお教えいただきたいをお願いします。

片山教育委員

今回の資料にある「加須発 宇宙経由 未来行き。」歴史と文化のふるさとから宇宙起業家が集まるまちへ。この文言が非常に良いと感じました。

このSTEAM教育を進めるにあたっては、目的が宇宙だけになるのではなく、あくまで宇宙を「教材」として捉え、農業、AI、地域課題といった身近なキーワードと結びつけながら、こどもたちの探究力、想像力、問題解決能力を育み、最終的に起業家が育つまちへとつなげていければ良いと思います。

その際、起業家育成という観点からも、デジタルプラスト社一社に頼るのではなく、地域の大学や高校、地元企業、さらには国内の様々な民間企業とも連携し、広い視野で進めていくことで、より良いものが出来上がると思います。

そして、ある程度まとまった段階で、全国に発信していく流れが良いと思っています。

小野田教育長	STEAM教育は、夢のある事業として展開しております。 このプロジェクトに最も教育長として期待していることは、こどもたちに、学ぶ意味を理解してほしいということです。 例えば、宇宙というテーマにおいて算数が宇宙を考えるときに役立つことや、宇宙を知るためには歴史も知らなければ理解に繋がらないということなど、学ぶ意味を理解して学習意欲につなげてほしいと思っております。 具体的には、算数を学習するというのが、宇宙や農業というテーマと関連づく、いずれ宇宙への軌道計算に役立つという気づきに繋がるということです。 パイロット的に大越小学校、樋遣川小学校、加須北中学校において実施しましたが、こどもたちの意見の中には「算数を学ぶ意味が分かった」というものもあり、学習の中で非常に貴重な体験だったと思います。
事務局（栗原学校教育課主幹）	（事務局に指示） カリキュラム作成に向けて今やっていること及び進捗状況の説明をお願いします。 1点目は、ガイドブックの作成です。ガイドブックの検討委員会を立ち上げ、理科等に詳しい校長先生を委員長に据えて、現場の先生方による検討を行っていきます。 2点目は、外部有識者委員会の設置です。株式会社デジタルブラストや大学の先生方等宇宙に詳しい方々や、STEAM教育に詳しい先生方等で外部の有識者委員会を立ち上げ、今行っている加須市の取り組みについて評価していただくとともに、ご意見をいただくというものも考えています。
市長	有識者委員会については、早ければ今年度中に1回（9月）実施したいと考えています。 私は、議論の冒頭でこどもたちに身につけてほしい力として、「農業と郷土への誇り」「科学的思考や深い探究心」、「挑戦する力」、「学びを仕事・社会につなげる力」、そして「AIリテラシー」の5つを挙げました。教育委員の皆様、今後設置される検討委員会や有識者委員会の皆様のご意見を踏まえ、こどもたちのことを考えつつ、宇宙に偏りすぎず、農の視点も入れて、「こどもたちに身につけてほしい力」について発展させていってほしいと思います。
	（2）加須市魅力ある学校づくり基本計画（骨子案）に対する意見募集の実施結果報告について

市長	続きまして、協議事項(2)加須市魅力ある学校づくり基本計画(骨子案)に対する意見募集の実施結果報告についてに移ります。
事務局(鈴木魅力ある学校づくり推進室長)	本件につきましては、令和6年7月に「加須市立小中学校の適正規模・適正配置の検討について」を市長から教育長へ依頼し、進めていただいております。
市長	今回、加須市魅力ある学校づくり基本計画(骨子案)に対する意見募集が実施されましたので、結果について事務局からご報告をお願いします。
片山教育委員	(資料2について説明)
市長	ただいまの説明に対しまして何かご意見ございますか。
遠藤教育委員	私が住む北川辺地域では、学校再編に関して、賛否を含め様々な意見が見受けられます。
遠藤教育委員	審議会では、そうした様々な意見を踏まえて協議していただけるものと思っておりますので、全ての可能性を排さずに進めてもらいたいと思います。
遠藤教育委員	私自身が子育てをしていた当時は、学校の先生との距離も近く、こども同士もまるで兄弟のように育つことができたため、小規模校のままでよいと考えておりました。
遠藤教育委員	しかし、親世代となって生まれ育った大利根地域に戻ってきた人たちの話を聞くと、「小規模校で辛いこともあった」と打ち明けられることがあります。
遠藤教育委員	また、「児童数が多い地区でこどもを育てたい」と転居した人や、「今後さらに児童数が少なくなる小学校でこどもを育てるのは避けたい」という話を聞くこともあります。
遠藤教育委員	親としての意見と、実際に小規模校を経験したこどもたち本人の意見には、違う部分があるのだと感じました。
遠藤教育委員	これから小規模校のあり方を考えるに当たっては、「体験の少なさ」がこどもたちにとって課題ではないかと感じています。
遠藤教育委員	中学校や高校へと進むにつれて規模が大きくなり、様々な経験ができるようになりますが、小さいうちに多様な経験を積める環境は非常に貴重です。
松永教育委員	だからこそ、こどもたちにより多くの機会をつくるのが私たち大人の役目ではないかと考えております。
松永教育委員	小規模校には小規模校ならではの良さがある一方で、極端な小規

猪股教育長職務
代理人

模校になると、集団で課題を解決するといった学習活動が、6年間という長い期間、十分に確保できないという課題があります。

つまり、教育委員会として適正な規模による集団教育ができる環境を提供できていないことが問題であり、今後そのような学校の増加が見込まれることから、学校再編に着手したという背景があります。

資料にある3つの進め方（「早急に進めるべき」「再編を進めたほうがよい」「やむを得ないが、慎重に進めてほしい」）についての意見を拝見すると、どの意見も「こどものために小規模化を解消すべき」という点、再編を進めるに当たっては、「合意形成を図って慎重に進めるべき」という点では共通しており、表現の違いはあるものの本質的には同じだと感じます。

意見募集の実施結果を見ると、こどもたちのことを考えた素晴らしいご意見が多く寄せられています。どのご意見からも、市民の皆様が、こどもたちのために、地域のために、真剣に考えてくださっていることが伺えます。

これは、学校再編の取組を丁寧に進めていることの現れであり、市民の皆様の理解のもと、再編の検討が順調に進んでいると感じます。

意見募集の結果を踏まえ、ブロック候補案の検討にあたっては、引き続き十分な合意形成を図るとともに、「持続可能な再編」や「段階的な再編」のあり方についても整理していく必要があると思います。

他市では「再編の必要性が市民に浸透しない」という声を聞く中、本市においては多くの市民の皆様の問題の本質をご理解いただいております。

私は、市民の皆様と認識を共有できていることが、現段階における最も大きな成果であると感じています。

市民の皆様の素晴らしい声一つひとつが反映された報告書だと感じました。

おおむね他の委員と同意見ですが、市民や教員の皆様の間で、何らかの再編が必要であるという方向性は一致していると思います。

寄せられたご意見を拝見すると、市民の皆様からはまちづくりの視点からの意見が多くあった一方、教員の先生方の意見からは、再編の一番の目的である「こどもたちの学びの質や教育の質の向上」を考えられたものが数多く見受けられました。

そして、なぜ再編が必要かという問いでは、どの意見を見ても、こどもたちのよりよい学びにつながる再編のあり方という視点が感じ

遠藤教育委員	られます。 今後の進め方について、騎西地域はまとまりが見られますが、加須北中学校区と大利根地域については、これまでの歴史的背景も含めて、より一層丁寧な説明や意見交換が必要だと考えております。 また、まちづくりの視点も非常に大事ですので、市長部局と教育委員会が連携し、様々な意見交換の場を設けながら、よりよい方向へと進めていただきたいと思います。 本日欠席された柴田教育委員とこの件についてお話しした内容を共有させていただきます。 柴田教育委員は大越地区の方々の声として、「早急に再編を進めて、一定の集団規模が確保できる学習環境を整えてほしい。」と話しておられました。 地域の方々は、こどもが減少している現状を本当に大変なこととして切実に感じておられ、そのような強い意見があったことをお伝えしておきます。 ありがとうございます。 総論賛成、各論反対という言葉もあり、今後の結論を左右する最も大事な段階であると捉えておりますので、教育委員会でも幅広い意見の汲み上げをしていただければと思います。
市長 事務局長（高橋学校教育課長） 市長 猪股教育長職務 代理人	（３）加須市地域クラブ推進計画(案)について それでは続きまして協議事項（３）加須市地域クラブ推進計画案について、進捗などについて事務局から説明をお願いいたします。 （資料３－１～３－４を説明） ただいまの説明に対しまして、何かご意見はございますか。 部活動の地域移行については、国の方針が定まらず多くの現場が混乱しています。地域クラブの立ち上げを含め、部活動を地域展開していく理由や必要性に関して、特に保護者の間では「教員の働き方改革のためだけに行われる」という大きな誤解が広がっているのが現状です。 しかし実際は、こどもたちの多様な体験や交流機会を創出するといった重要な目的があります。この事業を進めるにあたっては、まず保護者が抱えている誤解に対し、学校だより等を活用して丁寧に説明することが不可欠であり、「働き方改革のためだけではない」という点を、伝えてほしいと思います。 また、居場所づくりに携わる者として、最も重要なことはこどもの

松永教育委員

命を預かるということであり、指導者の人材確保だけでなく、適切な知識を身につけるための研修も実施することが重要です。

そして、地域クラブは一つの大きなコミュニティを作る事業でもあることから、教員や教育委員会だけでなく、様々な団体の方々に「あり方検討委員会」へ参加いただき、地域のニーズや現状を踏まえた上で、より適切な組織を作っていけたらと考えています。

部活動の地域移行は、20年後、30年後に理想的な形で地域に定着した姿を思い描きながら進めるべきだと考えます。

現在、部活動に83%もの子どもたちが主体的に取り組んでいます。もしも、将来、一部の子どもたちだけが活動できるような形になってしまったとしたら、目的を達成できたとは言えません。

ただ、現状として、進めていく中では問題も多くあるので、解決方法を考えつつ、可能なものから可能な範囲で条件を整え、移行を進めていく必要があると思います。

地域への移行は、単に「指導者を確保できればできる」というものではありません。小学生を対象とした陸上クラブの指導・運営に携わっている私自身の経験から言えますが、スタッフが急に指導できなくなったとしても正常に運営できるだけの余裕ある人員体制がまず必要です。

さらに、会計や会場確保、大会手続き、安全管理、保護者への説明・対応など、様々な事務をスタッフが役割分担し、総合的かつ組織的に運営する体制がなければ、子どもたちを受け入れることはできません。

資料にあるとおり、「保護者の方へ具体的な運営イメージを周知する」ことは重要ですが、そのためには、まず教育委員会自身が、地域移行が完成した状態について具体的なイメージを持つことが不可欠と考えます。そして、そのイメージを指導者や運営を担っていただく方と共有するためのステップを踏む必要があると思います。

改革の実行期間が示されていますが、加須市には、中学校が8校あり地理的にも広いです。時間がかかったとしても、これらの課題を一つ一つ丁寧に解決しながら着実に進めていくべきと考えます。

遠藤教育委員

まず、保護者の67%が部活動の地域展開を「あまり知らない」または「全く知らない」という数字に大変驚きました。

参加意向についても、半数が「どちらとも言えない」と回答しており、保護者の方々がこの問題に大きな不安を抱えていることがわかります。

	こどもたちの部活動への高い加入率を見ると、彼らは「学校で、学校の先生に指導してもらうこと」に価値を感じて活動しているのではないかと思います。 そう考えると、アンケートで土日に指導可能と答えた先生方（約1割、54人）に対し、きちんと対価をお支払いしてこどもたちを見てもらうシステムを構築する方が、より具体的で現実的なのではないかと思います。 また、活動場所への移動手段も具体的に検討していただきたい課題です。 最後に、最も懸念しているのは、令和10年度から受け皿を用意するとして週休日の部活動を実施しないという部分です。もし受け皿の用意が間に合わなければ、こどもたちの活動の場が失われてしまう恐れがありますので、この点については今後も詳細を詰めていただくようお願いいたします。
片山教育委員	私も、部活動を「習い事」のように捉えるイメージに賛成です。その上で、こどもたちが活動を選ぶ際には、単に競技や種目だけで分けるのではなく、「競技中心」「楽しむ中心」「文化系」「地域貢献」といったカテゴリーで分けて説明することも一つの方法かと思います。 また、先ほど猪股委員がおっしゃっていた「居場所」という視点も、これからますます重要になると思います。 受け皿団体については、既存の団体との交渉だけでなく、より視野を広げて考えても良いと考えます。例えば、料理や書道などで個人的に活動されている方に打診することや、教員や行政職員を対象に指導者を再度掘り起こすことも有効であると考えます。 さらに、民間企業のクラブ活動と連携するといった選択肢もあると思います。 そして、こどもたち自身から「こんなことがやりたい」と案を募り、それに応えてくれる地域の方を探すような、双方向の仕組みがある地域になれば嬉しいです。
市長 事務局（高橋学校教育課長）	受け皿について、国や県からは何か示されていますか。 受け皿について具体的に示されておらず、市では既存の団体と相談し、また、新たに受け入れてくれるところを探すという手順で進めております。
市長	市としては、国や県に形を示すよう一段と強く要望したいと思います。
小野田教育長	この件については、世間では先生方の働き方改革が優先というこ

市長	とが先行しておりますが、それは理由のひとつであるものの、実際学校現場に目を落とせば既にチームが組めずに広域（連合）になっているところもあり、こどもたちの活動を保障するという点で必要な流れだと考えております。 しかし、その移行の仕方や具体的な指導者の確保方法が国や県から示されない現状であり、その中で市は何ができるのかということ、既存のスポーツクラブやスポーツ団体の人たちと相談している段階で、今後できるものから実施していくという状況です。 本日案でお示した理由は、この件について教育委員さんと市長さんで共有してもらい、課題のひとつとしてこれからも引き続き協議をお願いしたいということです。 １０年後、２０年後に意欲のあるこどもや競技志向のこどもだけが活動している状態を、私は選びたくないと思います。 国や県の方針が定まらない中ですが、必要な情報収集、想定はきちんとしていただき、必要なトライアルや準備も行いつつ、細かに私と情報共有していただきますよう、私から教育委員会側へのご意見とさせていただきます。
	（４）加須市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
小野田教育長	議題（４）につきましては、資料４－１及び４－２をもって報告という形とさせていただいてよろしいですか。
市長	（了解の声あり） 私からは、資料にある観点を大事にし、業務量管理、健康管理について良い形で実施していただきたいということを伝えさせていただきます。
市長	それでは以上をもちまして、議事は終了となります。 貴重なご意見いただき、誠にありがとうございます。 進行を事務局にお返しいたします
事務局（瀬田政策調整課長）	４ 閉 会 （閉会）
会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。（注） 令和８年 ９ 月 １８ 日 署名 <u>堀股 幸美子</u>	

（注）特に署名を要しない審議会等については、事務局名を記入してください。